



- 1. 例会最重点主義で、例会出席者の純増・出席率を高める。
2. 会員増強目標
3. 福島職業宣言文化
4. 青少年ショート交換事業実施への研究
5. 横断的な委員会ジョイントでの活動強化
6. ローターリ－賞への挑戦
7. ローターリ－財団への理解と活用
8. 米山記念奨学会への協力

飯坂ロータリークラブ 週報

創立 昭和33年(1958)5月5日
ガバナー 石黒秀司
ガバナー補佐 佐久間弘行
会長 菅野浩司
幹事 斎藤孝裕

8月は会員増強・新クラブ結成推進月間

2020-2021年度 例会日/木曜日12:30 例会場/かむろみの郷 穴原温泉 匠のこころ 吉川屋

RI会長 ホルガー・クナーク 事務局/〒960-0211 福島市飯坂町湯野字新湯6 (吉川屋内) 電話(024)542-2226 FAX(024)543-1433

通算

第6回[3014]例会報告 令和2年(2020)8月27日(木)

出席委員会報告

Table with 2 columns: Item, Value. Includes: 会員総数 39名, 出席会員 28名, 欠席会員 11名, 出席率 71.80%

言行はこれに照らしてから「四つのテスト」

- 1. 真実かどうか
2. みんなに公平か
3. 好意と友情を深めるか
4. みんなのためになるかどうか

黙祷 故 篠木勝司 会員

開会点鐘 菅野浩司 会長

ロータリーソング [手に手つないで]

四つのテスト 阿部弥生 職業奉仕副委員長

今週の誕生日 8月20日 石川邦俊 会員 8月24日 千葉政行 会員
8月27日 鈴木重忠 会員 8月29日 中野哲郎 会員

lunch time

会長の時間



今月は13日と20日の二週にわたって休会とさせていただきます。その間に、川又会員のご尊父様と篠木会員の悲報が入りまして、お通夜、葬儀告別式とご会葬いただきました皆様には本当にありがとうございました。篠木会員の告別式では、本来は私がやるべきでしたが、飯坂ロータリークラブを代表いたしまして、佐藤喜市郎会員に弔辞を捧げていただきました。長年、篠木会員と共に飯坂ロータリークラブの発展にご尽力いただいた佐藤喜市郎会員ならではの素晴らしい弔辞でした。ありがとうございます。篠木会員の突然の悲報はただただ驚くばかりですが、今年度第一回目の例会にも元気なお姿で出席され、これからまだまだロータリアンとして、人生の先輩として、色々ご指導いただきたいと思っていたところなので、本当に残念でなりません。実は、私の母方の祖父が旧国鉄に勤務しており、篠木会員も旧国鉄でSLに乗車されていたので、入会してからそのことを伝えますと非常に驚かれまして「菅野君は名和さんの孫なのかい」と、国鉄時代に一緒にSLに乗車していた頃を懐かしんでおられました。ロータリークラブでも40年以上にわたり、多大なるご貢献をいただき、会長はもちろん、ガバナー補佐を歴任され、ロータリーを愛している偉大な方でした。篠木会員が愛したこの飯坂ロータリークラブをより素晴らしいクラブにしていくことをここでお願い申し上げ、篠木会員のご冥福を心より申し上げたいと思います。

続きまして、前回行われました理事会と青少年奉仕委員会のご報告をさせていただきます。理事会の報告ですが、お手元に年次報告書をお配りさせていただいております。その中で、前年度の決算報告と今年度の予算案について、理事会でご承認いただきました。また、来月9月10日にガバナー公式訪問が行われます。当日は委員長の皆様にご出席いただいて、ご報告をお願いいたします。また、9月の例会プログラムについてもご報告をいただきました。次に青少年委員会セミナーには、私はZoomで参加させていただきました。また、地区の委員として佐藤喜市郎会員にも現地でご参加をいただいております。インターアクト、ローターアクト、ライラ、青少年交換プログラムについて、各委員長さんからご報告をいただきました。また、ライラの研修会が来年3月6日に予定されており、青少年交換については、ハンガリーに交換留学された学生さんのご報告もありました。

幹事報告 斎藤孝裕 幹事

A. 来信

- 1. ガバナー 石黒秀司 氏より 「職業奉仕委員会セミナーの案内」
とき 9月26日(土) 10:00~12:15
ところ 郡山ユラックス熱海

- 2. 郡山東ロータリークラブより 「創立45周年記念誌」 開催日 令和2年2月21日

B. メーキャップ報告

8/22 地区青少年奉仕委員会セミナー 菅野浩司、佐藤喜市郎会員 各会員

- 2020-21年度ガバナーエレクト 志賀利彦 氏より 「2020-2021年度ガバナーエレクト事務所開設の知らせ」

開設日 2020年8月7日(金)
所在地 〒971-8185
福島県いわき市泉町5丁目10-6
Tel 024-88-7940 FAX 0246-88-7939
Email 21-22shiga@ri2530.com

スマイリングBOX 伊堂里佳 委員 【合計3-69】《年月計比較▲3-134》

【ご報告】川又家様より御遺志金(ご尊父様)3万円を頂戴いたしました。
吾妻 一夫会員 H 妻(洋子)に花ありがとうございました。
石川 邦俊会員 H 渡辺哲也会員のスピーチたのしみになっています。暑さに負けないで頑張りましょう。
菅野 浩司会員 S 本日は、渡辺哲也会員のスピーチ楽しみにしております。よろしくお願ひいたします。
斎藤 孝裕会員 S 渡辺会員のスピーチ、本日よろしくお願ひします。
佐藤喜市郎会員 S 渡辺哲也会員のスピーチを楽しみにしています。



令和二年八月八日ご逝去

故 篠木勝司 会員
入会 昭和54年(1979)7月1日
ロータリー歴 41年
会長(2回)
県北第二分区分会ガバナー補佐
地区社会奉仕委員会委員長
地区職業奉仕委員会委員長

安斎 忠作会員	S	渡辺哲也会員のスピーチを楽しみにしています。
中島 定宏会員	S	妻にお花ありがとうございます。欠席おわび
佐藤 真也会員	S	飯坂温泉の地酒「純米吟醸摺上川」のひやおろしが9/2に発売となります。皆様ぜひよろしくお願いいたします。
生田 目正志会員	S	渡辺哲也会員のスピーチを楽しみにして来まして。よろしく願います。
伊堂 里佳会員	T	吉川屋さん、昨日は絆DAYでお世話になりました。渡辺会員のスピーチを楽しみにしています。
村上 裕司会員	T	本日の会員スピーチたのしみしております。
鈴木 牧子会員	T	渡辺さんのスピーチを楽しんでいます。
永井 秀典会員	I	妻への素敵な花束をいただきましてありがとうございます。
渡辺 哲也会員	I	スピーチの機会ありがとうございます。

◆新会員スピーチ

渡辺哲也 会員



まずは、先日お亡くなりになりました篠木会員のご冥福を心よりお祈りいたします。今回の飯坂ロータリークラブ会員としての初のスピーチの内容は何がいいか思案しましたが、長くお世話になる中で、一番初めは自己紹介がいいのではないかと思います。お聞き苦しい点などがあると思いますが、宜しくお願いいたします。

私は昭和51年8月10日に川俣町に生まれ、44歳になりました。現在、家族は妻と高校1年生の長女と小学3年生の次女と3人で暮らしております。趣味はウォーキングで、早朝や夕方の時間を利用して、1日に2万5千歩を歩く時もあります。父親は、生粋の金属精密加工業の技術者で、現在は株式会社渡工テクノサイトとして、半導体や自動車関連、産業用省力化部品、精密重工具の製造、製作などを行っています。私は非常勤取締役の立場でありますので、飯坂ロータリークラブには精密加工業として入会させていただきました。私が幼少期の頃から父が川俣ロータリークラブの会員だということもあって、自宅にはいつもロータリークラブのメンバーの方が出入りしており、お酒を飲んで印象があります。結婚式には川俣クラブのメンバーの方々から南米の衣装でコスプレパレードを行い、ケーナを演奏していただきました。自分もいずれはロータリークラブの会員として活動したいと思いつつ、社会人となり歩んでまいりました。地元の小中学校を出た後、福島市の学法福島高校の門をくぐることになり、高校時代は生徒会長を務めていました。将来は歴史の研究者になりたいと思い、東京の私立の大学を目指しましたが、合格できず、縁あって地元の福島大学経済学部に進学しました。妻と出会ったのは大学1年生の時に、当時、福島大学にたった一人富山県から来ていた女性と結婚しました。大学卒業当時はITバブル崩壊で、就職難の時代でしたが、その中で永井さんの後輩になります。福島民友に就職しました。最初の配属は校閲部、その翌年は報道部所属となり、新聞記者としての第一歩を踏み出しました。原町勤務を経て、浪江支局長となり、その時に浪江ロータリークラブにも入会しました。当時は取材から営業、事業までを手掛けておりましたが、特に営業の仕事が大好きで、4年連続で増収増益を達成し、社長賞をいただきました。取材では、東京電力福島第一原発を担当したのですが、そのことが後の震災原発事故後の自分の人生に大きく関わっていきます。また、浪江支局では長女を授かりました。平成20年からは報道に戻り、政治記者として新たな一歩が始まります。当時はリーマンショックの年で、商工労働部担当として、企業の経営安定化資金や有効求人倍率のかつてない低水準などの取材をしました。この時に初めて、新聞記者として食べていけるという自信、手ごたえを感じた時期でもありました。政治では、当時民主党担当として、民主党政権前夜の動きや、県内全小選挙区の議席を失った自民党を担当しました。国政、県政共に、政財界の方々との人脈、お付き合いを築けた時期でもあります。

平成23年3月11日、東日本大震災、そして、東京電力福島第一発電所の事故を迎えます。私は県庁本庁舎で被災し、その時から未曾有の災害に挑む取材活動が始まりました。県庁の隣の自治会館に泊まり込んで、水素爆発が連鎖した原発の状況、放射能の影響、住民避難の速報を伝え続けました。不眠不休とはまさにあの時の状況だったと自分では思っております。発生から1か月後には、「3.11から」という長期連載を任せられ、放射能の影響とはどのようなものか、放射線量を軽減させるすべはないか、福島県は今後どのように歩んでいけばいいのかという答えやヒントを探すため、全国各地、時には海外にも赴いて、助言をいただける専門家に新たな知見を求めました。ただ、取材をすればするほど、未曾有の災害の本質に近づけば近づくほど、復興までの長い道のりの焦りで廃炉や風評被害の壁の高さを痛感しました。本当に多忙な時期でしたが、次女が誕生し、5年間の県政記者クラブでの取材を経て、平成25年から本社報道部遊軍キャップとして、福島市政や経済、医療、スポーツなどを統括しました。平成27年からはいわき支社報道部部長を務め、後輩記者の育成や労務管理など、今まで先輩方がやってきたことを自分がやるようになり、多くを学んだように感じます。脚本家の倉本聰さんの担当も務めたこともあります。倉本先生の本県に対する思いや提言を取材したことが良き思い出です。倉本先生とは富良野のバーで二人で飲んだことがあるのですが、その時に福島民報の私の同僚だった記者が先生の大ファンで「ツタヤのDVDを借りに行くと、必ず1、2本は抜けている」という話を聞いて、それだけ国民的な作品なのだという話を思い出して、お話をしたところ、大変喜んでいただいて、今のお付き合いに至っております。平成29年からは、再び県政キャップとして、県政記者クラブに戻りました。長い記者生活でしたが、なかなか現場にずっと居させてもらえるということはなく、本当に永井さんはじめ多くの先輩方に甘えて、記者生活を送らせていただきましたが、自分自身、社内で仕事をしていくことに納得できないという思いが募って、県政や福島復興に定年退職なく、現場で働きたいという思いを胸に、志あって昨年の県議会議員に立候補し、皆様のおかげで当選させていただきました。福島復興に携わることを天職と思い、これからも精進していこうという思いです。何よりも、飯坂ロータリークラブの一員として、『奉仕の理想の実現』に力を尽くしていきたいと思っております。今後とも、まだまだ若輩者ですが、ご指導を宜しくお願いいたします。本日はありがとうございました。

◆閉会点鐘

会長